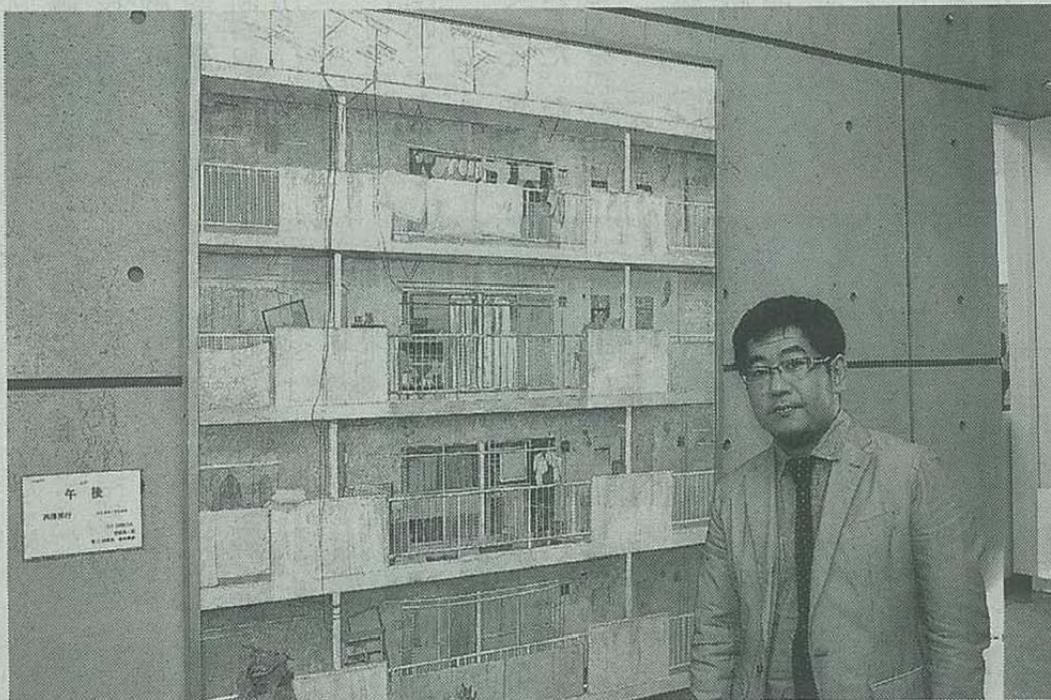


朝日新聞 2013(平成25)年5月8日 佐賀版 たいせつな本

享月 日 業庁 聞 2013年(平成25年)5月8日 水曜

忘れがたい、破壊力刻む

県立美術館学芸員 野中耕介さん



たいせつな
本

「童夢」

小学生で「ヤマト」、中学で「ガンダム」と、マンガやアニメの洗礼をまともに受けた世代です。大学で一生懸命、油絵を描きながら、マンガやアニメ、映画などいろいろ

なものを見ていました。

1980年代は洋画や日本画など高尚なアートと、マンガやイラストなどサブカルチャーの垣根が次第に低くなった時代。壁や枠組みをぶち壊す破壊力を持ったマンガが次々出てきました。もっと違うものが見たいという欲求が受け入れられ、マンガの可能性が広がっていった時代です。

その中でも「大友以前」「大友以後」と時代を分けるインパクトを与えた作家の初期の代表作です。飛び抜けた画力を持った完璧な漫画家としてリアリズムのあり方を変えた人。初めて日本人をモンゴロイドとして描いたとも言われます。登場人物は目が大きくて格好いい漫画的なキャラクターではなく、鼻が低くて目が離れた、実際見たままの人たち。ロン

1967年佐賀市生まれ。佐賀西高から佐賀大教育学部特設美術科に進み、福岡教育大大学院教育学研究科を経て、96年から県立美術館学芸員。洋画を主に学び、専門は現代美術。学生時代は油絵を描いており、現在もイラストや県立美術館のポスターデザインなどを手がける。

〜ありまし〜



大友克洋、双葉社(絶版)。マンモス団地で相次ぐ変死事件。幼児回帰し、超能力を使

って殺人を繰り返す老人と、止めようとする少女の攻防が、団地全体を巻き込んでいく。1980年から81年にかけて雑誌「アクションデラックス」に連載され、大幅加筆されて83年に単行本化。日本SF大賞と星雲賞コミック部門を受賞し、注目を集めた。ネット古書店では千円弱で入手可能。

グショットを多用するなど、従来のマンガにないアングルや正確さを突き詰めました。終盤に入ると、団地の大規模爆発や、超能力バトルによる球面状の陥没などカタストロフィ(大崩壊)が展開します。壊されるのが高度経済成長の産物である超大型団地というのが象徴的です。

自分はマンガやイラストも描いていましたが、チャンピオンは洋画や日本画でした。若い頃は序列をつけたがるんですよね。それが、ある時期から自分が描くものはすべて枠組みを取っ払って「萬画」(石ノ森章太郎の造語)だとか考えるようになってきました。そうやって絵を見ると、マンガも古典の名画もすごく面白く見えてくるんです。

大友の衝撃はすごく大きかったけど、世の中は動いていて、常に新しいビジュアルが求められている。今の人たちが読んでも衝撃は感じないかもしれない。青春の1ページでしかない。

(大野宏)